



## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月14日

上場会社名 株式会社フェニックスバイオ 上場取引所 東  
 コード番号 6190 URL https://phoenixbio.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 島田 卓  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部長 (氏名) 田村 康弘 TEL 082 (431) 0016  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	933	—	△172	—	△158	—	△161	—
2021年3月期第3四半期	501	△39.8	△363	—	△336	—	△347	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 △139百万円 (—%) 2021年3月期第3四半期 △378百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	△49.01	—
2021年3月期第3四半期	△108.00	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しているため、2022年3月期第3四半期の各数値は、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	2,513	1,048	41.6
2021年3月期	2,516	1,093	43.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 1,046百万円 2021年3月期 1,093百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,300	—	△155	—	△156	—	△157	—	△47.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無  
 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 - 社（社名）、除外 - 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	3,307,112株	2021年3月期	3,288,212株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	45株	2021年3月期	45株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	3,300,263株	2021年3月期3Q	3,216,063株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8
4. 補足情報 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や輸出の増加により、持ち直しの動きが見られたものの、原油価格の上昇や新たな変異株（オミクロン株）の感染拡大が懸念されるなど、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループの顧客が属する医薬品業界では、世界人口の増加と新興国の所得水準の向上を背景として市場は成長しておりますが、特許切れによる後発薬の台頭、新薬開発の長期化等により製薬企業の収益性は厳しさを増しております。一方で、潤沢な資金を持つ大手製薬企業は、新たな収益源を求めて有望なパイプラインには積極的に投資する等、M&Aによる業界再編が進んでおります。このような状況を背景に、製薬企業では新薬開発を迅速かつ効率的に実施するために、臨床試験等の開発業務を外部のCRO（開発業務受託機関）へ委託するケースが増えております。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によるテレワークの広がりによって、製薬企業の外部委託は一層増加しております。

このような状況のもと、当社グループでは感染予防策を講じながら営業及び生産活動を行っており、世界の大手製薬企業が研究開発拠点を置く米国を中心に、マウスの肝臓の70%以上がヒトの肝細胞に置き換えられたヒト肝細胞キメラマウス（当社製品名：PXBマウス）を用いた受託試験サービスを提供しております。

当社グループの主要顧客である製薬企業や研究機関における研究開発活動は復調傾向にあり、海外製薬企業の抗B型肝炎ウイルス薬の開発も活発な状況にあることから、売上高は国内市場、海外市場ともに堅調に推移しております。しかしながら、国内生産施設での生産工程の不具合によるPXBマウスの一時的な生産数減少や海外生産施設での生産の遅れにより、供給不足が顕著となったことから、受注活動に影響が出始めました。当社グループでは、顧客へのマウス提供を最優先として対応するとともに、生産数の向上に向けて取り組んでおります。費用面につきましては、売上高の増加に加えて、使用したPXBマウスに一部状態不良が含まれていたことから延期となった大型案件の各種費用が発生したことから、売上原価は増加いたしました。一方で、販売費及び一般管理費は前年同期とほぼ同水準で推移しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は933,150千円（前年同期は501,205千円）、営業損失は172,233千円（前年同期は営業損失363,815千円）、経常損失は158,895千円（前年同期は経常損失336,905千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は161,759千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失347,323千円）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,812,808千円となり、前連結会計年度末に比べ13,394千円増加いたしました。これは主に売掛金及び契約資産が40,299千円増加した一方で、現金及び預金が23,122千円減少したことによるものです。また固定資産は700,966千円となり、前連結会計年度末に比べ15,944千円減少いたしました。この結果、資産合計は2,513,774千円となり、前連結会計年度末に比べ2,549千円減少となりました。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は440,243千円となり、前連結会計年度に比べ41,458千円増加いたしました。これは主に前受金が42,919千円増加したことによるものです。また固定負債は1,024,804千円となり、前連結会計年度末に比べ1,255千円増加いたしました。この結果、負債合計は1,465,048千円となり、前連結会計年度末に比べ42,713千円増加となりました。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,048,726千円となり、前連結会計年度に比べ45,263千円減少いたしました。これは主に収益認識会計基準等の適用により利益剰余金の期首残高が80,682千円、為替換算調整勘定が22,264千円、それぞれ増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失161,759千円を計上したことによるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年11月12日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、2022年3月期は一定程度継続すると仮定しておりますが、大規模な企業活動の制限については想定しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,327,813	1,304,690
売掛金	159,856	—
売掛金及び契約資産	—	200,156
製品	52,956	49,229
仕掛品	138,609	96,348
原材料及び貯蔵品	87,501	100,871
その他	32,675	61,512
流動資産合計	1,799,414	1,812,808
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	195,886	177,080
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	111,565	105,222
土地	296,000	296,000
リース資産(純額)	11,103	15,419
使用権資産(純額)	87,666	94,246
有形固定資産合計	702,222	687,969
無形固定資産	2,580	1,780
投資その他の資産	12,108	11,216
固定資産合計	716,910	700,966
資産合計	2,516,324	2,513,774
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	37,240	34,185
1年内返済予定の長期借入金	2,481	—
未払法人税等	6,094	6,708
前受金	242,263	285,182
その他	110,704	114,166
流動負債合計	398,784	440,243
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	900,000	900,000
資産除去債務	3,206	3,255
その他	120,343	121,549
固定負債合計	1,023,549	1,024,804
負債合計	1,422,334	1,465,048

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,358,126	2,363,956
資本剰余金	578,035	583,866
利益剰余金	△1,796,473	△1,877,550
自己株式	△40	△40
株主資本合計	1,139,647	1,070,231
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△46,416	△24,152
その他の包括利益累計額合計	△46,416	△24,152
新株予約権	759	2,647
純資産合計	1,093,990	1,048,726
負債純資産合計	2,516,324	2,513,774

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	501,205	933,150
売上原価	213,896	469,166
売上総利益	287,308	463,983
販売費及び一般管理費	651,123	636,217
営業損失(△)	△363,815	△172,233
営業外収益		
受取利息	1,014	142
為替差益	1,747	8,474
補助金収入	9,105	132
受取保険金	14,374	1,973
その他	1,780	3,429
営業外収益合計	28,022	14,152
営業外費用		
支払利息	977	704
株式交付費	135	110
営業外費用合計	1,113	814
経常損失(△)	△336,905	△158,895
特別損失		
固定資産除却損	0	9
特別損失合計	0	9
税金等調整前四半期純損失(△)	△336,905	△158,904
法人税、住民税及び事業税	1,806	1,852
法人税等調整額	8,611	1,002
法人税等合計	10,417	2,854
四半期純損失(△)	△347,323	△161,759
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△347,323	△161,759

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純損失(△)	△347,323	△161,759
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△31,312	22,264
その他の包括利益合計	△31,312	22,264
四半期包括利益	△378,636	△139,495
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△378,636	△139,495

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

当社グループは、従来、製品販売等の一時点で充足される履行義務においては出荷時に収益を認識しておりましたが、顧客の当該製品の検取時に認識することといたしました。ただし、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品の国内の販売において、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時点までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

受託試験サービスにおいては、従来、試験が終了しサンプルや試験報告書等の成果物が顧客に移転した時点で、全ての履行義務を充足したのものとして、収益を認識しておりましたが、これを、受託試験サービスに製品を供する場合は、試験へ製品が投入された時点で、当該対価を収益認識することといたしました。また、受託試験サービスの対価のうち、試験手技代につきましては、一定の期間にわたり充足される履行義務であるため、進捗度を見積もり、収益を認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度の見積もり方法は、実験動物を使用したサービスであり、試験期間にわたり飼育や薬物投与など一定の人員が投入され、期間の経過と比例的に履行義務が充足されるため、試験計画書等に定める試験期間に基づき、経過期間により試験の進捗率を見積もりしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過措置に従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,597千円増加し、売上原価は3,202千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ3,394千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は80,682千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過措置に従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況の解消を図るべく、当社グループでは北米を中心とした海外市場での事業拡大と生産体制の確立に努め、収益の改善に取り組んでまいります。海外売上高については、新型コロナウイルス感染症の影響により、顧客の研究開発活動が停滞していたことから2021年3月期は対前期比で減少しましたが、受注環境は堅調であります。今後さらに売上を伸ばすため、コンソーシアム活動やCROとの業務提携により新規顧客開拓やPXBマウス、PXB-cellsの用途拡大を進めてまいります。同時に従来受託試験サービスからPXBマウス販売へのシフトを進めることで、経営資源をマウス生産に集中し、収益基盤の安定化を目指してまいります。そのための体制として、海外生産拠点であるKMT Hepatech, Inc. 社において設備投資及び人材育成を進め、PXBマウスの供給能力を増強するとともに、生産の効率化によるコストの低減に取り組んでまいります。

資金面につきましては、当第3四半期連結会計期間末日において、1,304,690千円の現金及び預金を保有しており、資金繰りを考慮した結果、当面の事業資金を確保していることから当社グループの資金繰りに重要な懸念はありません。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、四半期連結財務諸表への注記は記載しておりません。

## 4. 補足情報

## (1) サービス別売上高

		前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
		金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
薬効薬理分野	国内	76,870	15.3	111,551	12.0
	海外	85,345	17.0	251,817	27.0
安全性等分野	国内	143,708	28.7	133,952	14.3
	海外	195,281	39.0	435,829	46.7
合計		501,205	100.0	933,150	100.0

## (2) サービス別受注高

		前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
		受注高(千円)	受注残高(千円)	受注高(千円)	受注残高(千円)
薬効薬理分野	国内	110,264	39,689	148,525	45,320
	海外	351,489	488,172	467,602	524,846
安全性等分野	国内	163,419	28,036	148,413	14,515
	海外	280,617	202,501	435,147	135,195
合計		905,791	758,399	1,199,689	719,877

- (注) 1. 当社グループは「PXBマウス事業」の単一セグメントであります。事業の傾向を示すためサービス別の売上高及び受注高を記載しております。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。